

ID No.	320
研究課題名	動物由来病原体のサルにおける感染実験
研究代表者	柳井 徳磨 (岐阜大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	甲斐 知恵子 (東京大学医科学研究所・教授) 浦野 徹 (熊本大学・教授) 野口 和寛 (熊本大学・助教) 中井 裕 (東北大学大学院・教授) 福田 康弘 (東北大学大学院・助教) 森本 素子 (宮城大学・教授) 村上 智亮 (東京農工大学・助教) Shehata Anwar (岐阜大学大学院・大学院生) 服部 政策 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究報告書	
「ワンヘルス」の考え方をもとに、ヒトへの接触とその後の感染が予測される種々の感染因子の動態をサル類を用いて解明することで、ヒトで発生しうる病態とその病理発生についての情報を収集した。 1) カニクイザル類を用いた<i>Cryptosporidium andersoni</i>を含む胃感染型クリプトスポリジウムへのヒトに対するリスク評価のために、胃感染型クリプトスポリジウムを収集・蓄積し、サルへの接種の準備を行った。 2) ウマヘルペスウイルス9型 (EHV-9) を用いた眼粘膜を介したヘルペスウイルス感染の病理発生解明のための基礎実験として齧歯類で実験を行い、眼粘膜接種モデルを確立した。 3) 動物由来アミロイドのサル類への伝達の可能性の検討することで、ヒトへのリスク評価を行うため、動物由来アミロイド (鶏由来) の収集に努めた。また、各種動物 (牛, ニワトリ, チンパンジー) 由来のアミロイドを精製し、リスザルに伝達試験を行ったがアミロイドの沈着は認められなかった。 4) 感染症防御に対する腔内細菌叢の役割の研究に、リスザルおよびヨザルを用いた評価のために採材を行った。	